

平成29年3月28日
 震災復興・企画部震災復興・企画課
 産業部観光課

気仙沼市震災遺構（旧気仙沼向洋高校）の保存範囲の見直しについて

1 これまでの経過

平成28年12月

- ・ ミシュランガイドや旅行エージェント、一般公開の参加者などから、南校舎だけでなく、校舎全体をそのままの状態に保存すべきとの意見が多く寄せられたことや、地域選出の委員を含む岩井崎プロムナードセンター検討会議（以下、岩プロ検討会議という。）でも保存範囲を広く取る意見が根強くあったことに鑑み、庁内で検討した結果、保存範囲を見直す必要があると判断（22日）
- ・ 市議会及び岩プロ検討会議にて説明、意見交換を実施（26日）
- ・ 見直しに時間を要することから、県に対し、解体工事の入札中止を依頼（27日）

平成29年1月

- ・ 県は、市の依頼に応じて、解体工事を中止（10日）
- ・ 岩プロ検討会議を開催し、保存や公開範囲等について意見交換を実施（18日）

岩プロ検討会議（平成29年1月18日開催）での主な意見

項目	市たたき台内容	委員からの意見
保存する範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南校舎に加え、北校舎、総合実習棟、渡り廊下（折り重なった車を含む）、生徒会館、体育館を保存範囲としたい。 ・ 保存工事の範囲は、内部公開する南校舎のみとしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 概ね了承。 ・ 経年劣化を防ぐための工夫が必要。
内部公開する範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでと同様、南校舎の一部を公開範囲としたい。 ・ 公開範囲を広げた場合、見学ルートとなる廊下や階段は、安全対策や侵入対策のための改修が必要となり、ありのままを保存するという意義が失われることになる。 ・ また、清掃、補修、警備、消防などに係る維持管理費が増大する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 折り重なった車や避難状況を示す黒板も見学できるよう、内部公開する範囲を広げるべき。 ・ とりあえず、「残す」ということの重要性が最優先。公開範囲に関しては中長期的にどのように展開していくか、継続して議論する仕組みづくりが必要と考える。

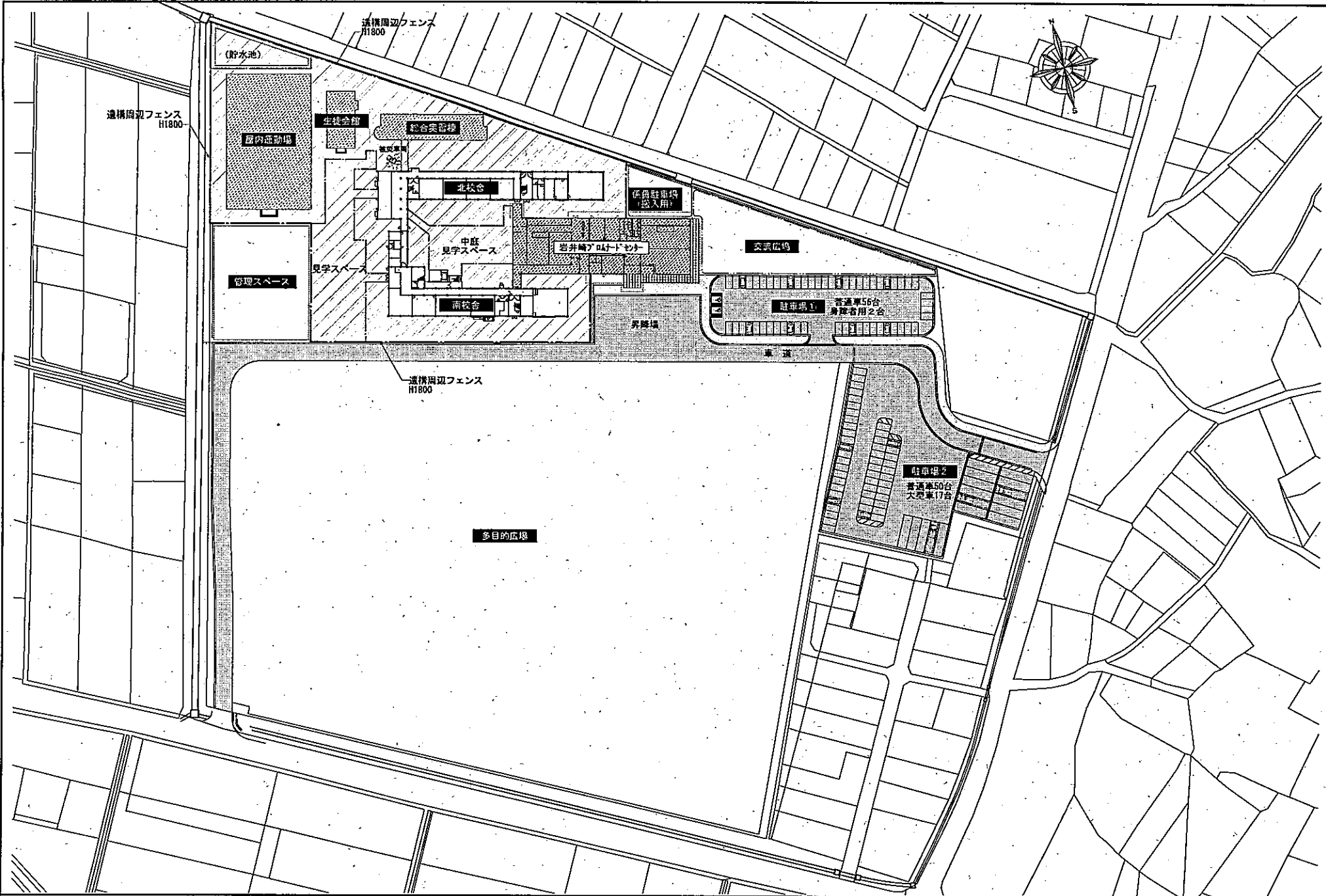
岩井崎プロムナードセンター	これまで検討した諸室の面積は変更せず、震災遺構との動線距離を短くするための配置変更を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・展示室がまとめられ、ストーリー性が欠如したので、見直しを求める。 ・校庭部分には駐車場を造らず、隣接する民有地を市が買い上げ、そこを駐車場にすべき。
---------------	---	--

2 今後の予定

平成29年3月までに、岩プロ検討会議や地元関係団体等と、保存及び公開範囲の方針について、最終調整・確認を行う。

予定比較表

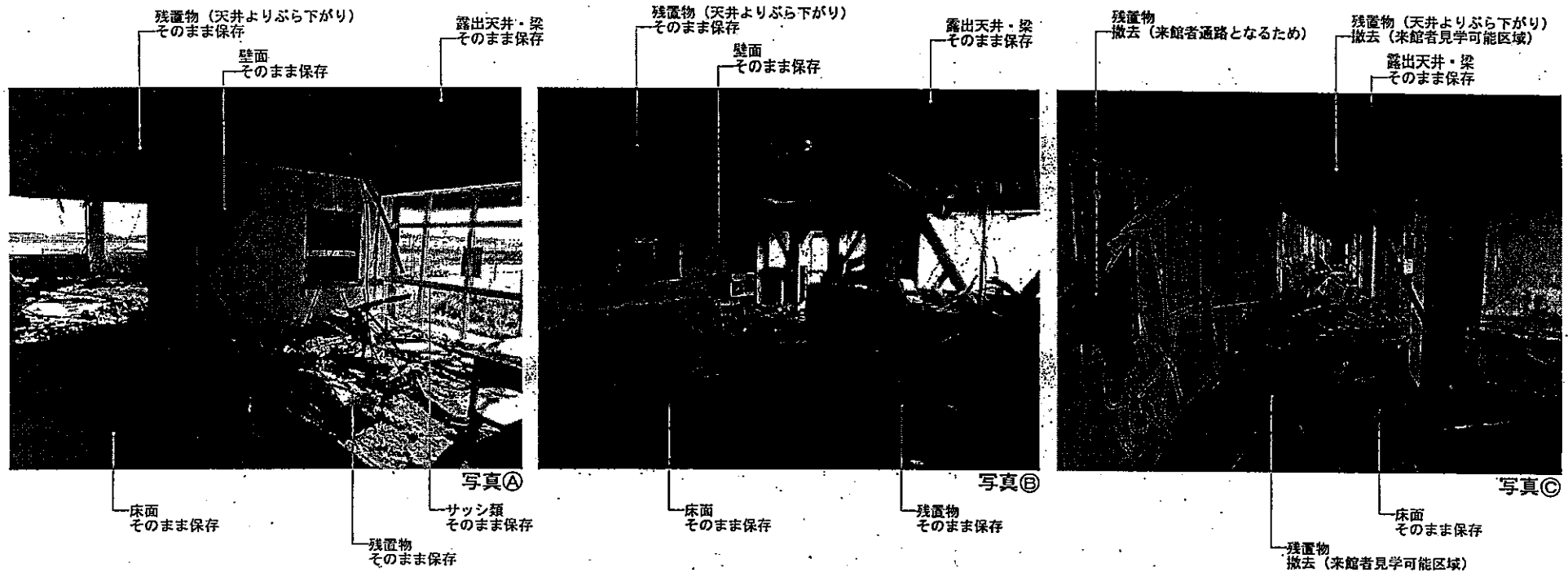
時期	従前	見直し後
平成28年度	遺構実施設計完了 岩プロ基本設計完了	遺構実施設計完了 岩プロ基本設計完了
平成29年度	解体工事完了 土地・建物の譲渡に関する契約締結 岩プロ実施設計完了 遺構工事開始 岩プロ工事開始	土地・建物の譲渡に関する契約締結 岩プロ実施設計完了 解体・遺構工事開始 岩プロ工事開始
平成30年度	遺構・岩プロ工事完了 遺構・岩プロ同時オープン	解体・遺構・岩プロ工事完了 遺構・岩プロ同時オープン



3

気仙沼東日本大震災遺構保存整備に係る実施設計業務 気仙沼東日本大震災遺構保存整備に係る実施設計業務	REVISION ----- ----- -----	Tanseisha	TITLE 外構図 外構計画図(案)			SUBJECTS 外構計画図(案)	No. 00
	DRAW 井上 DESIGNED 小林 CHECKED 渡部		DATE	SCALE 1/1200			

気仙沼市東日本大震災遺構整備保存に係る基本設計書（抜粋） 公開範囲：1F、3F、4F、屋上



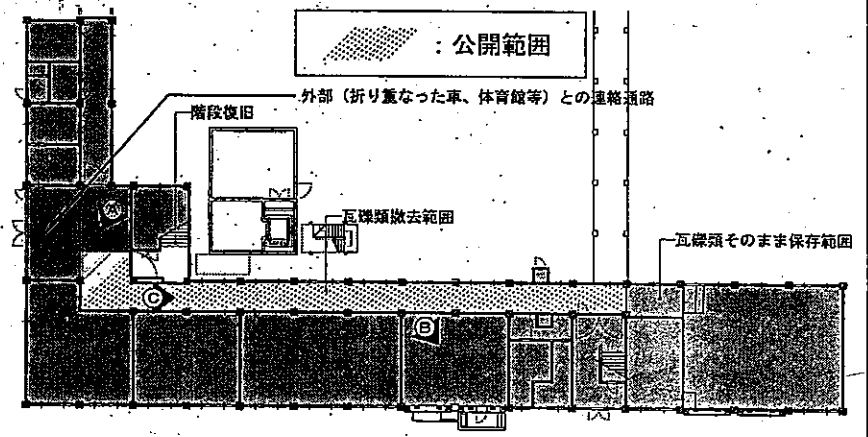
※来館者見学可能区域にあたる廊下の床・壁・天井は補修を行い、来館者の安全を確保する

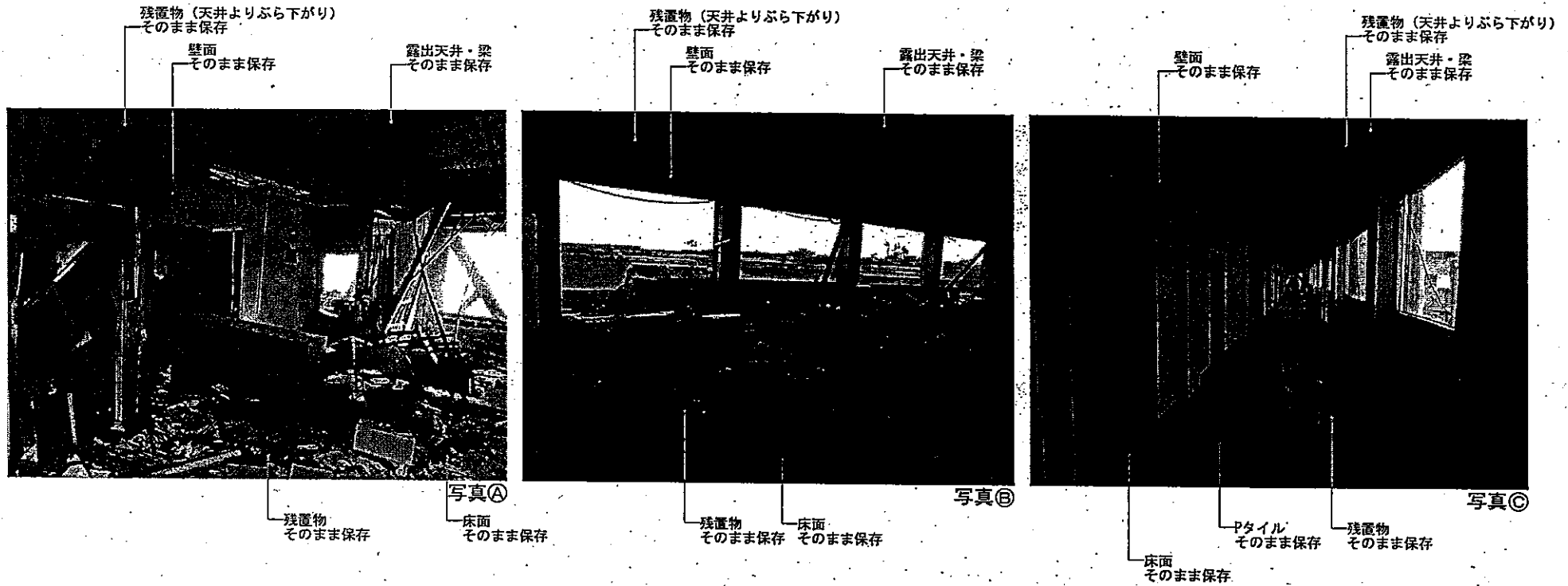
1階 保存・撤去 基本方針

場所	1階 各室・廊下部	保存方針	・残存内装材：そのまま保存（処置無し）
内容	・内装材残存		・瓦礫類：そのまま保存（処置無し） →津波被害当時の状態をそのまま残す
	・漂流瓦礫類残存		・可燃・腐敗の可能性がある瓦礫類：撤去 →安全面・衛生面を考慮
使用部材	・錆安定材		・廊下部瓦礫類：撤去（来館者見学可能区域となるため） →1階廊下が来館者見学可能区域となるため、瓦礫類を撤去。
	「アルバー工業：CCP-117」（同等品以上）	・来館者見学可能区域となる廊下部の床・壁・天井は、補修・補強を施し、来館者の安全を確保する。	
	※錆の状態のまま保存する箇所のみ。		

KEY PLAN

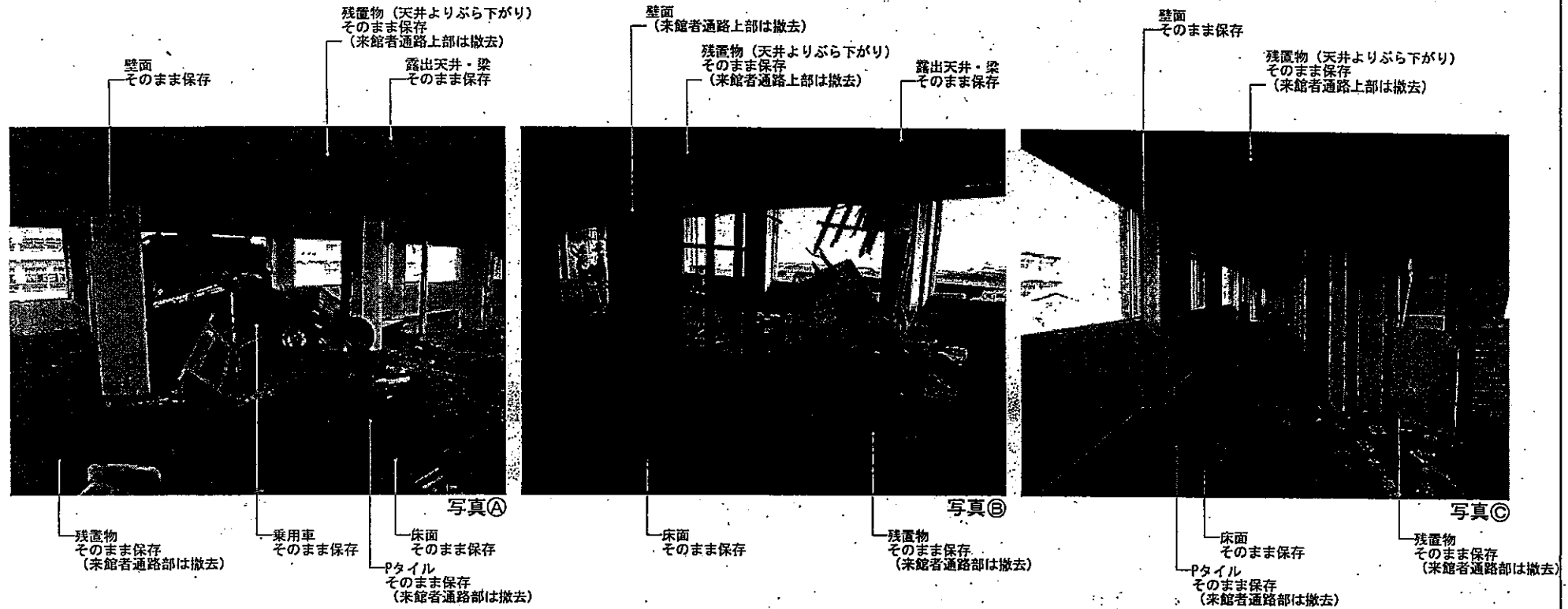
1階





※人の進入が不可のため、全ての瓦礫類・漂着物・内装材等の残置物はそのまま保存する

2階 保存・撤去 基本方針			KEY PLAN	2階
場所	2階 各室・廊下部	保存方針		
内容	<ul style="list-style-type: none"> 内装材残存 漂流瓦礫類残存 	<ul style="list-style-type: none"> 残存内装材：そのまま保存 瓦礫類：そのまま保存 →未公開部 (進入禁止区域) となるため 		
使用部材	<ul style="list-style-type: none"> 錆安定材 「アルパー工業：CCP-117」 (同等品以上) ※錆の状態のまま保存する箇所のみ。 			
REVISION			TITLE	基本方針
			SUBJECTS	撤去・保存の基本方針 2階 保存の考え方
	DRW	井上	DESIGNED	小林
			CHECKED	小林
			DATE	2016. 1. 31
			SCALE	-



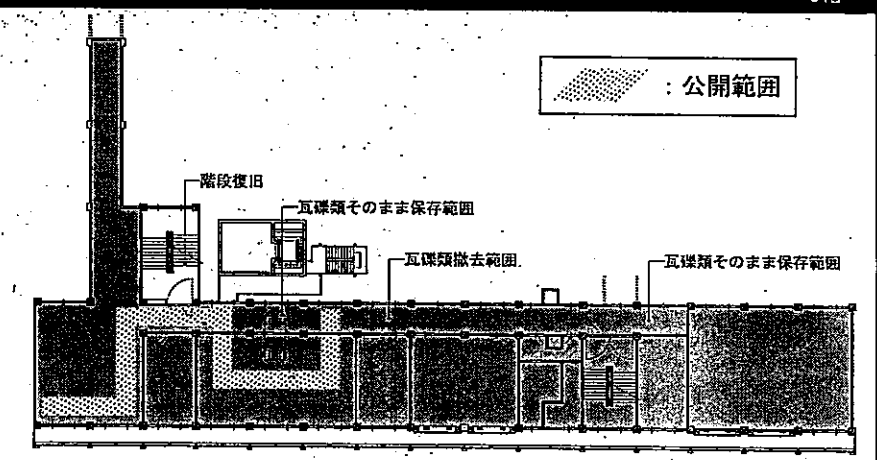
※来館者見学可能区域にあたる廊下の床・壁・天井は補修を行い、来館者の安全を確保する

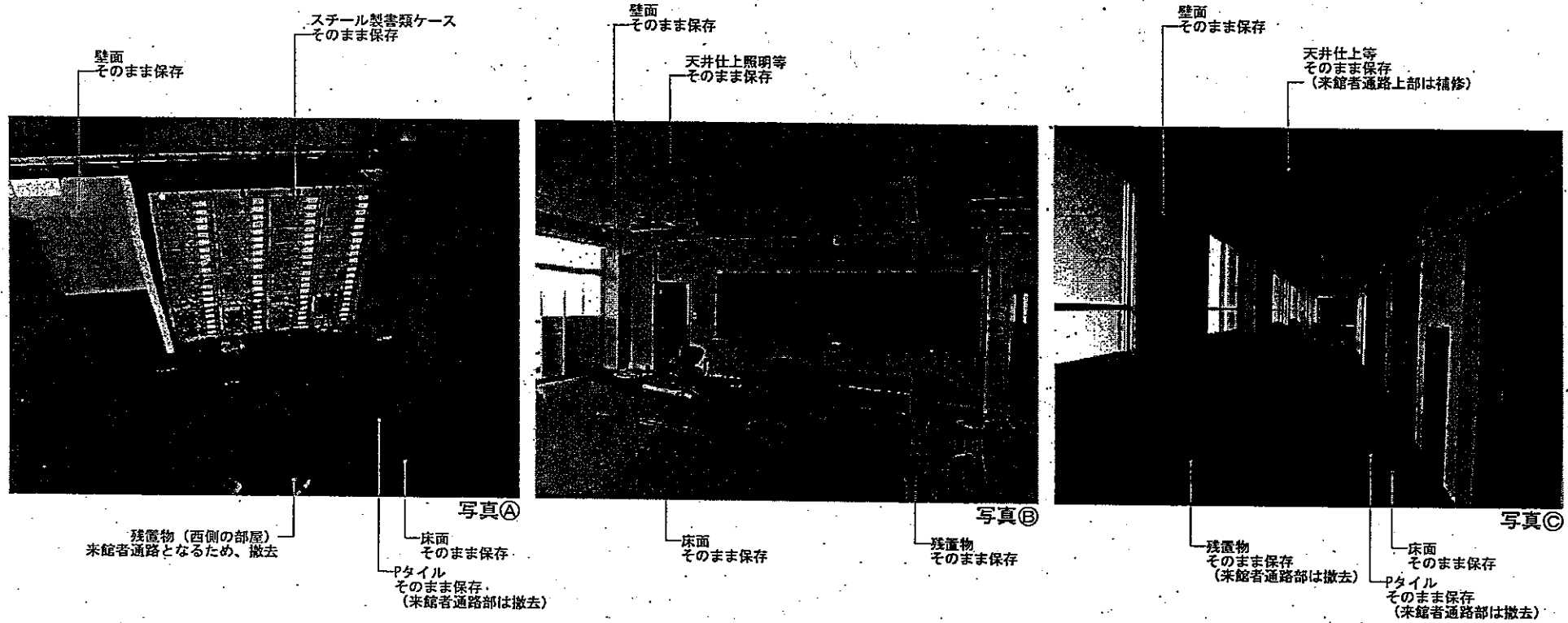
3階 保存・撤去 基本方針

KEY PLAN

3階

場所	3階 各室・廊下部	保存方針	・残存内装材：そのまま保存 (処置無し)
内容	・内装材残存	・瓦礫類：そのまま保存 (処置無し)	→津波被害当時の状態をそのまま残す
	・漂流瓦礫類残存	・可燃・腐敗の可能性がある瓦礫類：撤去	→安全面・衛生面を考慮
使用部材	・錆安定材	・来館者通路部瓦礫類：撤去	→瓦礫類を撤去し、来館者通路を設置する。
	「アルバー工業：CCP-117」 (同等品以上)	・来館者見学可能区域となる廊下部の床・壁・天井は、	補修・補強を施し、来館者の安全を確保する。
	※錆の状態のまま保存する箇所のみ。		





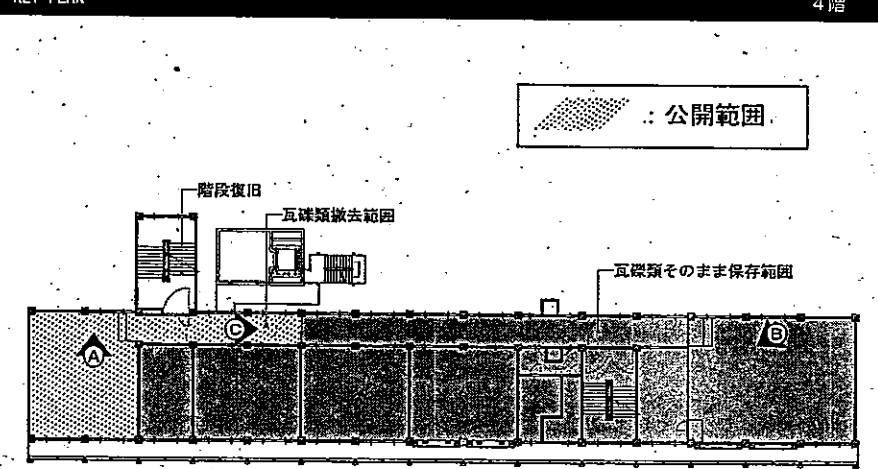
※未公開部(東側)については、既存の窓を全閉する

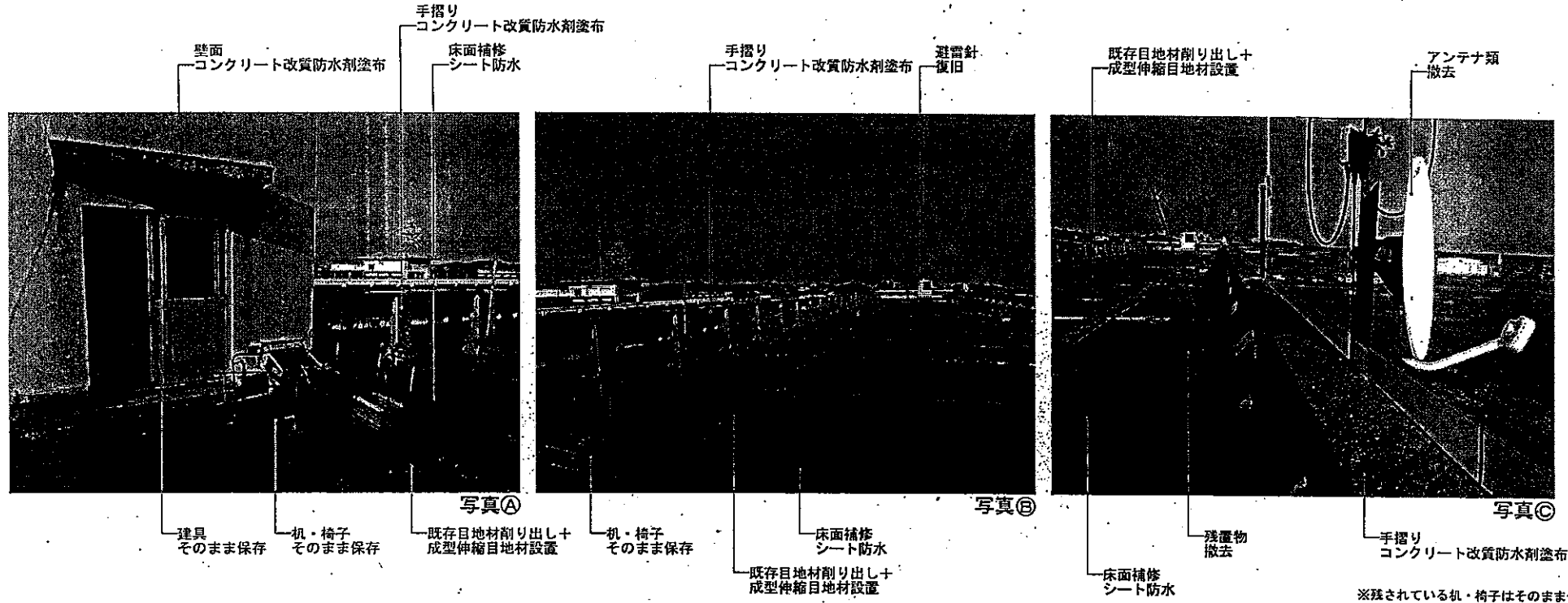
4階 保存・撤去 基本方針

場 所	4階 各室・廊下部
内 容	・内装材残存
使用部材	・錆安定材 「アルバー工業：CCP-117」(同等品以上) ※錆の状態のまま保存する箇所のみ。

保存方針	・残存内装材；そのまま保存(処置無し)
	・瓦礫類；そのまま保存(処置無し)
	→津波被害当時の状態をそのまま残す
	・可燃・腐敗の可能性がある瓦礫類；撤去
	→安全面・衛生面を考慮
	・来館者進入区域部瓦礫類；撤去
	→来館者の見学スペースとなるため

KEY PLAN





※残されている机・椅子はそのまま保存
 ※既存屋上床面にシート防水を施工
 ※コンクリート露出部には、コンクリート改質防水剤を塗布する

R階 保存・撤去 基本方針

KEY PLAN

R階

場 所	R階	保存方針	<ul style="list-style-type: none"> 避難に用いられた机・椅子残存：そのまま保存 →津波被害当時の状態をそのまま残す 残存する瓦礫類：撤去 →被災時のものではないと考えられるため 屋上防水層破損：復旧 →既存屋上床面にシート防水施工 コンクリート露出部：補修 →コンクリート改質防水剤を塗布
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 机・椅子残存 防水層破損の可能性有 		
使用部材	<ul style="list-style-type: none"> コンクリート改質防水剤 「Aston：CS-21」（同等品以上） 歩行用シート防水 一般品使用 成型伸縮目地材 一般品使用 		

